

令和5年度 第2回恵那市社会教育委員会議事録

開催日時：令和5年7月28日（金）

午後1時30分～4時00分

開催場所：恵那市役所西庁舎災害対策室A・B

1. 開会あいさつ
2. 社会教育委員長あいさつ
3. 議題
 - (1) 令和5年度第1回社会教育委員会会議録の承認について
 - (2) 地域学校協働活動の推進について答申書（素案）の審議
 - (3) 家庭教育支援計画事業の成果と課題の検証について
選択と集中する事業と、焦点化する取り組みの検証
4. その他
 - ・各種大会の参加申込みについて
 - ・東濃地区社会教育振興協議会研修会の前日準備の協力依頼について
5. 閉会あいさつ

次回日程

日時：令和5年9月27日（水）午後1時30分～

場所：市役所会議棟大会議室

内容：答申書案の審議

・出席者の数：社会教育委員14人中11人、事務局4人（以下のとおり）

	役職	氏名	選出団体等	出欠
1	委員長	林 達夫	三学のまち推進委員会委員	出席
2	副委員長	山田 恵市	文化振興会	欠席
3	委員	山内 正一	学識経験者	出席
4	委員	高草 環	図書館サポーターえな	出席
5	委員	相原 正文	恵那市青少年育成市民会議	出席
6	委員	森川 伸江	保育士・幼稚園教諭経験者	出席
7	委員	柘植 俊夫	民生委員児童委員協議会	出席
8	委員	小林 英文	壮健クラブ連合会	欠席

9	委員	百松 義朗	NPO まちづくり団体	欠席
10	委員	田口 容子	放課後子ども教室コーディネーター	出席
11	委員	各務 周和子	保育士・幼稚園教諭経験者	出席
12	委員	山口 清季	恵那ライオンズクラブ	出席
13	委員	阪上 美代子	恵那市スポーツ推進委員連絡協議会	出席
14	委員	吉村 良	校長会代表（大井小学校長）	出席

事務局

1	教育長	岡田 庄二	恵那市教育委員会	欠席
2	課長	柄澤 史枝	生涯学習課	出席
3	課長補佐兼係長	伊東 将昭	〃	出席
4	主査	今井 ちえこ	〃	出席
5	社会教育指導員	三宅 勝義	〃	出席
6	社会教育指導員	丸山 眞理子	〃	欠席
7	社会教育指導員	太田 礼子	〃	欠席

1. 開会あいさつ

（事務局）皆さま、本日はお忙しい中、またとても暑い中お集まりいただき誠にありがとうございます。とうございます。

それでは、定刻となりましたので、これより令和5年度第2回恵那市社会教育委員会を開催させていただきます。本日、山田副委員長、小林委員、百松委員から欠席連絡をいただいています。続いて、資料の確認をさせていただきます。本日配布した次第と、前回説明させていただいたA3の『家庭教育支援計画事業一覧』はご持参いただけましたでしょうか。お忘れの方はお申し付けください。それでは、次第に沿って会議を進めさせていただきます。はじめに、開会あいさつを柄澤生涯学習課長より申し上げます。

（課長）暑い中、お出かけくださりありがとうございます。本日、教育長は他の公務があり欠席させていただいております。よろしくお祈いします。毎日暑いため、市役所、恵那文化センター、コミュニティセンターにウォーターサーバーを設置する試みを進めています。ご利用いただくとともに、「皆さまお身体に気を付けて」とお声掛けしていきたいと思っております。本日は、活発なご意見をいただきますよう、よろしくお祈いいたします。

2. 社会教育委員長あいさつ

（委員長）猛暑続きで体力減退しております。いつも午前中は草刈りをしていますが、春秋に比べるとペースが遅くなって、いつもの1/4くらいになっていると思います。暑いのでこちらが倒れてしまいそうで、無理をせず遅れてもまあいいか、とやっております。若い人でも、年寄りでも同じかと思いますが、無理をせずマイペースで

いくのがいいかと思えます。

本日は、大きい議題が2つです。『家庭教育支援計画』は重点化事業の項目が担当課から出されていますが、内容はどうか、方法はいいか、目標はいいかなどの意見をいただけるといいと思えます。もうひとつ、諮問を受けている地域学校協働活動についての答申案ですが、事務局で答申の素案を作ってもらいましたので、付け加えた方がいいこと、これは言いすぎだとか、もっと具体的にとか、意見を出していただけるといいかと思えます。答申素案の経緯などを見ていただくと、地域学校協働活動がどういう経緯で市の教育委員会から諮問したかわかると思えます。いろいろ実践してきた中で初めて課題が明確になってきておりますので、それを何とか解決していきたい。その案を作っているところです。県下でも恵那市は進んでいますので、恵那市版を作っていきたい。要は、これを読めば「こうすればいい」「こうやってやればいい」「こういうイメージか」とわかることが一番大事かと思えます。これまで文科省や県教委が出しているものはイメージがわからず、何をやったらいいかわからなかったもので、答申では、恵那市版をわかりやすく、担当者が交代した時に、これを読めばある程度わかると思えます。これから推進員協議会などを経てよりよくなると思えますので、社会教育委員会の意見をまとめて、推進員の意見もいただき、さらに社会教育委員会で検討してということで、何回もやり取りすることでよりよくなりますので、丁寧にやっていけたらと思えます。けれど、どこかで決断をして、ひとまずこれでやってみようと、また実践を通してわかりにくいところを変えていくサイクルです。まずは、答申を教育委員会へ出していききたいと思えますので、よろしくお願ひします。

3. 議題

(事務局) 議事進行については、委員長をお願いします。

(1) 令和5年度第1回社会教育委員会会議録の承認について
(委員長) 修正などあれば終了後に事務局へ出してください。

(2) 地域学校協働活動の推進について答申書(素案)の審議
(委員長) 事務局から説明をお願いします。

(事務局) 本日持参いただきました資料で、1枚目に案と書かれているA4両面のもので、『恵那市における地域学校協働活動の推進について(答申)』をご覧ください。本年度社会教育委員会で答申内容をご審議いただくこととなりますが、予定としましては令和6年3月の社会教育委員会定例会で教育長に提出していきたいと思えますが、その鑑文書としてこちらの資料があります。答申内容については、事前にお目通しいただいているものとしてお話ししますが、これまでの恵那市における導入の経緯ですとか、過程、この答申が必要になってきた経緯などを書いております。(1)～

(3) は答申書のポイントになってくる要点部分を抜粋して書いてあります。最後

「答申書」は別冊のとおりとし、本編という形になっています。今回、素案として出させていただきます。1月の社会教育委員会の中で、教育長から諮問がありました。その後、答申の骨子を決めていただいて、3月の委員会、5月の委員会で小グループに分かれて骨子についてご意見いただきました。そのご意見を基にしながら、小委員会ということで、委員長、副委員長、小グループのグループ長を務めていただいた相原委員と山内委員で6月15日と7月7日の2回、小委員会を開き意見をいただきました。その意見をまとめたものがこの答申の冊子になります。先に委員長からも話がありました通り、まだ素案の段階ですのでいろいろな角度からご意見をいただいて、これを読んだときに「こんな活動をすればいいんだ」とイメージがわくものであるかどうか、地域でアレンジしながら活動に繋げていけるようになることが目的になると思いますので、そのような視点で見ただけたらと思います。まず、答申の構成を説明させていただきます。(冊子P3目次説明)

このように、これまでの皆さまからの意見を基にまとめた形になっておりますので、さらに今回意見をいただけたらと思います。今回、素案ということで出しておりますので、今日いただいた意見を再度小委員会でまとめ、素案の素を取り(案)ということでバージョンアップしていきたいと思っております。9月6日に地域学校協働活動の推進員さんが集まる協議会があり、推進員さんに説明し、現場からの意見をいただき、反映させたものを9月27日の社会教育委員会で(案)として提示させていただき、皆さまからご意見をいただき、精度を高めていけたらと思っておりますのでよろしく申し上げます。以上です。

(委員長) 3つに分けてご意見いただきたいと思っております。まず、鑑文のこと、検討結果の前までのこと、検討結果のこと。鑑については文章化、誤字などが主になります。次の経緯・与件の整理・検討経緯は、地域でやってきたことが書かれていますが、それがわかりやすいかどうか。最後の答申本文は、地域で地域学校協働活動をするのに、何をしたらいいかわかるかどうかという視点でご意見をお願いします。

まず、鑑について、内容的にご意見ございますか。(委員全員に確認)

(委員) 答申文として語尾はどうするかと、「いただく」などへりくだった言い方、内容の重複が気になりました。スタイルとしてはよくわかりました。

(委員長) 文章については、これから直します。鑑の中身については、矛盾がないということで次にいきたいと思っております。二つ目の経緯・与件の整理・検討経緯についてはどうでしょうか。

(委員) 答申書の表紙ですが、「令和5年3月」になっているので、「令和6年3月」に変更してください。

(委員長) ありがとうございます。これも大事な部分です。4ページ以降、内容の流れはわかりますか。恵那市はこういう経過を経て改善してきたのだとわかってもらうために必要な部分です。

(委員) 順序立てて整理されており、よくわかりました。検討して、修正し、推進員

さんとの兼ね合いもしながらやっていくのですが、強制でなく、できるところからということが一番大事で、決まった形から進めていくのではなくて、みんなが入り口になって入り込んでいけたらいいと思います。地域学校協働活動が、今学校が抱えている課題、子どもたちの手助けになっていけるとと思います。学校の課題に、こう整理されたものと照らし合わせてどこから入っていくか、お互いに、みんなの知恵を借りながら、大事なこと、核となることがあれば、内容や方法は違っても目指すところにたどり着ける。大きい成果、小さい成果を認め、やったから終わりではなく、やっていることを認めてあげられるといいかなと思います。以上です。

(委員長) ありがとうございます。経緯のところに「これまで地域でやってきた良さが加わる」といい」ということでしょうか。

(委員) そうですね。推進員さんや学校が入ってくると、より具体的になります。この流れを読ませてもらって、具体例も分かると、もし自分が推進員になった時に動けると思いました。「ここに書かれているようにやる」のではなく、「できることをやる」がポイントで、やりようは地域や学校に合わせていけばいい、SDGsに繋げていってほしいと思います。

(委員長) ありがとうございます。

(委員) 経緯はわかります。与件の整理は、これを読んで勉強していく段階です。最後まで読むと、これまでやってきたことを中心に、これからもやっていかないといけない、それが一番大事なんだとわかりました。

(委員長) 現場は困っているということが明確に分かってもらえたらいいかと思いません。

(委員) 概要はわかります。

(委員) 読んでいくと、全体を通して「学校」と出てきますが、これは小学校のことを指していますか。

(委員長) まず、小学校からやっていきたいと思います。中学校にも当てはまる所はあります。ただ、小学校がいくつか集まってひとつの中学校になっていますので、もう少し手を加えないといけません。それは次の段階かな、と思います。

(委員) 先の話になるかもしれませんが、よく「願い」とか「課題」とか、具体的なほわっとしたものが出てきますが、それは「それぞれの学校によって違う」ということでよろしいでしょうか。

(委員) 地域によって違うので、自分たちの小学校区の課題を明らかにして取り組んでいこうというのがねらいかと思えます。

(委員長) どういう風にやっていけばいいか、という手掛かりがわかればいいのかと思えます。学校の立場から見て、わかりますか？

(委員) 私は立ち上げの時から学校サイドで関わらせていただいたので、最初は人口減少、消滅可能性都市をなくしていくという国の大きな流れがありました。また、学校と地域が両輪になって、というきれいなビジョンが描かれていましたが、現実的には恵

那市は前提（P7）の3つ目に書かれているとおり、もともと地域で取り組んでいる内容があるので、それと学校がリンクしていく自然な流れでやった方が、『恵那型』としてうまくいくだろうと。国が掲げているのはもう少し巨大なプロジェクトです。私は岩村にいた時に、文科省のうまくいった例をいくつか見せてもらいました。それは大企業と組んでまちおこしをするパターンか、文科省の役人が出向いて推進員として動いているパターン、その2パターンしかありませんでした。恵那のような小さな町で、自然に地域と学校が連携してやっているとなると、地域にある文化・歴史など学校と交わるところで進めて行ったり、地域がやりたいことを学校が応援したり、学校がやりたいことを地域が応援したり、その自然さがすごく大事だなと思っていたので、こういう風に改訂をしていただくということは、学校関係者としてもありがたいなと思っています。

（委員長）学校の願いがここに入っていく、学校にも地域にも負担が偏らないように、というのが前提ですので、今まで通りやっても、「この辺を明確にしたらもっとスムーズにいく」という方向でやっています。学校側からの意見をいただきました。この部分は、「なぜこのようになってきたか」の経緯、流れがわかればいいのかと思いますが、よろしいでしょうか。

（委員）意見なし

（委員長）先に、「課題は地域によって違う」と話がありましたが、推進員で入った時に「この地域はどんな課題があるか」をまとめてもらわないといけません。その時に「どんな視点でやっていったらいいか」ということも書いています。それも含めて「検討結果（P6～）」の「はじめに」「地域学校協働活動のあり方」「地域学校協働活動推進員の役割」「地域学校協働本部のあり方」「地域学校協働活動の発展に向けて」とありますが、スパイラル的に発展・充実していくために協働活動は進んでいくと書かれています。そのために推進員は何をしたらいいか、本部の委員は何をしたらいいか、これまで不明確だった部分を明確にしていこうということです。推進員さんも色々なやり方がありました。自分の発想でどんどん進めていく方がいたり、何をしたいかわからずに言われたことをやっていたという方がいたり色々でした。ある程度、基本を作り「これとこれは落とさないようにやっていく」、あとは推進員の特性、地域の特性を生かしながらやっていく、というように書かれています。ご意見いかがでしょうか。

（委員）1. 地域学校協働活動のあり方（2）事業のねらいの3つ目「コーディネーター機能を充実される」と、（3）事業を進めるポイントの5つ目「コーディネーター的役割を果たす人材」の使い分け、そして、コーディネーターと推進員との関係性はどうか、と思いました。

（委員長）推進員は主な活動としてコーディネーター的な役割をやりましょう。学校の思いを受けて、協働本部で検討する。地域の思いを受けて学校にお願いに行く、核となる人です。

(委員) コーディネーター＝推進員ということですか。

(委員長) そうです。

(委員) 「コーディネート的役割を果たす人材」を発掘し、育成する。とありますが。

(委員長) そういう人が推進員になるといいな、という思いです。推進員の任期が2年なので、留任でもいいですが、新しい人に代わる時のために、得意な人を地域で発掘しておくといいなということです。

(委員) コーディネーターが別にいるのかと思いました。

(委員長) 間違いやすいところですね。推進員の主な仕事がコーディネートになります。余裕があれば他のこともしてもらおうと。1. (2) 事業のねらいは5つありますが、1つ目は目的、2つ目は願う子どもの姿、3つ目は役割、4つ目は活動方法、5つ目は願いだと私は思っています。

(委員) 地域の中で関わっている方は地域学校協働本部を知っていて、推進員さんと会うことがあるが、他の方は何も知らない。どうやって巻き込んでいくといいのかなと思います。

(委員長) より多くの地域の人を巻き込んでいくのは大きな課題ですね。まずは、役になった人がこの活動を理解することが大事で、その人たちの中で「どうしたらいいか」を相談するが、これも地域によって違います。難しいので、推進員を含めた本部に、学校からは教頭が入ると思いますが、「どうしようか」と話し合いを持ち、どう広めていくか、参画させるか、例えばライオンズや壮健クラブ、青年団・消防団の方を委員に入れるなど、知恵を出し合って、人をどう誘い込んでいくかを話し合えるといいと思います。委員がスポ少指導者であれば、その親子に広げることできると思います。

(委員) そこまでの考えはなかったです。

(委員長) 中野方は地域の協力関係がとてもいいようですが。

(委員) 私はこうして関わっているので少し分かるだけで、家内は何も知らないと思います。書かれています、知らせるべきだと思います。推進員がどういうことをやっているか見えてこない。私はわかっている、例えば家内に説明しようとする、いい加減になってしまう。普通の人には知らないんじゃないかな。告知放送では、行事の案内は流れていますが。

(委員) やっている人はやっているが、広がりがない。いつも同じ人がいろんな役をやっている、関係ない、興味がない人が多いと感じています。

(委員長) いつもと違う人をどう参画させるか、工夫していかなければなりませんね。それが事業のねらいでもあり、最終的には地域の活性化につながってきます。もっと後に出てきますが、皆さんは「地域が活性化した」ことをどう判断されますか？言葉では何となく言えますが、どんな視点があるか。いくつかあると思いますが、子どもが喜んで活動しているとか、地域の色々な方がたくさん参加してくれる人数とか。発展すると、お客様として参加してくれた人が主催者に協力してくれる。その次とし

て、地域への貢献。地域の役に立つ、「次は私がやる」など、この辺までくるとすごく活性化しているんじゃないかと思います。活性化という言葉だけでなく、活性化の中身を明確に持って見ていかないと評価できない。私は、まず人、そして参加姿勢への発展があると思っています。同じ人ばかりでは活性化と言わず、違う人が出てきた時に活性化したと評価できる。「私はこういう視点で活性化を捉える」というイメージが持てるのが大事だと思います。事業のねらい、たくさんの人が参加して、子どもとふれあい、地域と学校が協力して支え合っているといいな、ということがこの文章でわかりますか。

(委員) 今これは整理されて書かれていますが、もっと実際にやっていることがあるので、例みたいなことを書けるといいかと思います。あと、人材というのも、私は社会教育委員の立場だけで、推進員の動きを全く分かっていません。けれど、何もしていないより、社会教育委員として知る機会があるからわかるんです。

参加というのは小さいことですが、孫がうちに泊まった時に、孫の家の地区のラジオ体操に連れて行きました。そこは子どもの数と同じくらい親や祖父母など大人が来ていました。配られたチラシには「地域で」と書かれていました。団地の運動場にはいろんな地域からきているなど、参加して話をしてみてもわかりました。そうして繋がっていくことがある。繋がると、今の学校の行事や授業への人寄せができるんじゃないかと思えました。参加、知ることが大事で、これがないと無関心になってしまう。この答申素案については、実践している推進員さんたちの意見をもらうとのことでしたので、その辺のすり合わせ、事例の肉付けをしてもらえたらと思いました。参加してみないとわからないなと思いましたが、参加するにはネーミングも大事で、誘い合いも大事だと思いました。

(委員) こういう会議も任期2年ですが、役をもらってここに参加した時に、どういふものかわからない状態。こういう資料を読んで勉強してわかりかけたところです。2年で交代すると、新しい人がわかってきた頃にまた交代となる。前任者からの引継ぎをきちんとすることが大事だと思っています。

(委員長) 私も1年間は何もわからずでした。

(委員) 正直、委員さん方は校長先生やら目上の方が多く、この場に馴染むのに時間がかかりました。

(委員長) 別の話ですが、社会教育委員でも、何回か話していると馴染みが出てきて気楽に話せるようになる。私なんて元校長といっても、地域のおじいちゃんですから。現役の校長先生も、気さくな方です。社会教育委員会に限らず、地域学校協働活動も参加して触れ合えば仲良くなれるんですよね。だから、参加することが繋がりや安心感を作ると思います。地域学校協働活動のあり方はよろしいでしょうか。

(委員) 意見なし

(委員長) 次、地域学校協働活動推進員の役割についていかがでしょうか。

(委員) おおむねよくわかりましたが、9ページ5行目と(4)5行目「地域住民

（役員等）」と書かれていますが、役員等というのは人が限定されるように受け取れます。（役員等）を消して「地域住民」だけにしてもいいように思いますが、（役員等）と書かれた意図はなんでしょうか。

（事務局）具体的に意見を聞くところは、活動本部など役員さんたちが集まる場になると思いますが、広い意味で捉えれば、地域住民からたくさん参加を求めるのが本来の趣旨ですので、おっしゃられるとおり、役員等とせず、地域住民としていいと思います。

（委員）（役員等）は消してもいいということでしょうか。

（事務局）はい。

（委員長）委員さんが「限られた役員」と捉えたということは、「地域全般の人たち」と伝えるために（役員等）はカットしましょう。

（委員）私も小委員会に出ましたが、答申書に書いてある役割は、どこの地域でも引き受けていただけるような文言になっています。人なのでタイプは色々あります。各地域、今の推進員さんのことではなく、今後を含めて検討した文言です。どこの地域に行っても、こういう推進員さんの役割でいいと思います。小委員会では、私も地元の現状をお伝えしましたが、これは恵那市全体のこととしてお願いします。

（委員長）色々な推進員さんがいらっしゃって、現状は違いますが、基本的に、推進員さんは最低限これをやってください、ということです。これらは推進員の大事な仕事で、その他は余裕があればやってくださいということになります。引き継ぐ時に、あれもこれもやらなくては、となると引き受け手がなくなってしまうので、受けてもらいやすいように。私の地区でも今年度推進員さんをお願いしましたが、「学校へお願いに行ったり、学校からの依頼を地域本部で話してください。」とお願いしました。これなら誰もができるのではないか。あとは、「慣れるまでは地域のことをわかっている塾長さんと一緒に行ってください。」と。また、「全体年間計画は、教頭先生と一緒に立てましょう。」学校の年間計画と地域の年間計画がありますが、全部網羅すると大変なので、「子どもが関わっている協働活動として位置づくものを整理しましょう、教頭先生と作ってください。」と、推進員と小中の教頭と3人で相談をして、作成は願います。8月中に作成することになっています。いろんな活動の中で、協働活動に位置づけられるものを整理している。それが推進員の仕事で、可能な範囲で活動を実際に見に行ってもらおう。年間計画を立てて、地域の広報誌などを活用して地域に広げようとしています。一覧表を配れば、地域は学校と協働して子どもたちのことをやってるんだな、こんな行事があるんだなとわかりやすいです。そんなことが（2）に書いてあります。

最後、（3）活動の成果と課題の報告は、各委員会活動、推進本部会議があるので、そこで推進員さんが成果と課題を発表してもらおうということにしています。すべて見に行かなくても、情報を集めて報告するといいかと思います。

（4）成果と課題の整理と引き継ぎは、担当が変わるときに引き継げるようにまと

めていく。推進員さんの役割は、年間計画を立てることと、成果と課題を発表することと、引継ぎの3つですと書きました。わかりますか。

(委員) 意見なし

(委員長) 3. 地域学校協働本部のあり方で、(1) 体制づくりについてですが、地域には推進協議会、自治区がありますので、そこに位置づいていて、自治区の人たちに協力してもらえる。独立していると協力してもらえない。自治区の会長に説明し、委員会で説明、途中経過、年間のまとめを報告する。(2) 年間の会議の進め方ですが、地域によって違いますが、笠置は、委員長、副委員長、事務局で日時や内容を相談し、委員長が招集します。大体、年間3、4回の小中学校の運営協議会が終わった段階で委員会を開くことが多いです。(3) 活動への参加協力のあり方は、委員は会議で活動予定などを聞き、人を集めるにはどうしたらいいかなど話し合い、学校運営協議会の報告を受ける。報告して子どもたちの様子を地域に広めていきます。(4) 予算の適正な管理と活用は、地域学校協働本部ごとに事業費が予算化されているので、何にどう使うか振興事務所と相談しながら活用していただきたい。協働活動本部の役割を説明させてもらいましたが、わかりましたでしょうか。

(委員) 4年前、東中にいた時に説明を受け、役員さんが全く分からないと言われました。わからない内容は何かと出し合っていたら、推進員・コーディネーター・構成メンバーをどうするか、そこに所属長を持たせるのかというのが、学校運営協議会とごっちゃになって何を言っているかわからない、となったようです。これを見せてもらおうと、恵那方式になっていて、スマートな形にしてもらったのでわかりやすいなと思います。

(1) 推進員の役割のところ、推進員はコーディネーターを兼ねるので「整理する」という動詞にしてあると思います。また、「事務局と相談して」というところ、初見で見た時に読み取れませんでした。教頭は、学校の年間計画と地域の年間計画を両方持っているので、それをペーパーで作って推進員さんにどう動いてもらうか見通しを持ってもらって、調整したりコーディネートしてもらって、啓発など事務的なことは行政と学校に、ということだと思いますが、(1) の・4つをだれが見ても初見で分かるようにすると混乱がないと思います。並び順も優先順位が違うような気がします。この4つがわかれば、その下は読んでいけるかなという気がします。今思ったことは後で事務局にお伝えします。以上です。

(事務局) また、具体的にお聞きします。

(委員長) 明確に、並列でなく、優先順位もはっきりとお願いします。推進本部の仕事についてよろしいでしょうか。誰を選ぶかは地域によって違いますが、笠置は区長にお願いしています。理由は、広報もできるし、人集めもできる。何をやってほしいかという目的のために、前の3役で話して決めました。はじめ、委員は一本釣りで集めました。何をしたいかわからない、そしてコロナで何もできない。そんな反省もあり、「人集め」を目的とした委員としました。これは、笠置方式で、地域によって

違うと思います。社会教育委員も委員として入ってもらおうと、地域の話も聞け、研修にもなるのでいいかと思ひます。そこは、生涯学習課から振興会長へ助言してもらおうといいなと思ひます。

最後、4. 地域学校協働活動の発展に向けてですが、3つの視点「願ひ」「内容」「方法」をきちんとして評価してほしいと書いてあります。活動する時に3つの視点を明確にしてからはじめることとします。(1) 今後の可能性として、SDGsに貢献するというこゝで、これで終わりではなく、どんどん発展していく。国も恵那市も力を入れていることに繋がっていく、地域活性化に繋がると書いてあります。3つの視点は評価しやすい具体的行動次元で書くといいのではないかと思ひます。小学校でまずやってみて、中学校の教頭先生にも参加いただくことが大事かと思ひます。東中という、大変ですが大井小、大井第二小、東野小に参加してもらえたらと思ひます。今後の可能性は非常に高く期待されています。笠置では、小学校から「2年生の畑づくりに協力してほしい」と推進員さんに連絡がありました。推進員さんが老人クラブに願ひしたら、やる人が見つかった。すると、畑の状態を良くしたいとのことになり、予算を使えるか事務局に相談すると、肥料や野菜の苗などに使えそうだとのことゝで8月中に何とかしたいと動いています。お膳立てをしたら、自分たちで動いていきます。こうして発展していくのかなと思ひます。よろしかったでしょうか。

(委員) 意見なし

(委員長) では、この件に関して一言ずつ願ひします。

(委員) 地域学校協働活動は大事なこゝなので、一番に子どものことを考えて活動できたらいいなと思ひます。

(委員) よくわかりました。ありがとうございます。

(委員) ライオンズクラブも青少年の健全育成をやっておりますので、今説明のあったとおり色々な意味で前向きに地域貢献をしていきたいと思ひます。

(委員) これからもっと勉強して、できる限りいろんな会に出ていきたいと思ひます。

(委員) すっきりまとめていただいて、学校としてもありがたいです。

(委員) 学校のことをわかっていけたらと思ひます。

(委員) 委員長がやっていることは、やらされているのではなく楽しんでやっているからこそ、負担だと思ひて話すのではなく「これからやっていくよ！」と前向きに話されていて、そこが土台かなと思ひました。同じようにはできないかもしれませんが、どこかつかかえているところが見えたりするので、できるところから、楽しんでやる形の説明をしていけるといいかなと思ひます。人数とか見える数字でなく、子どもの心が動く体験、地域の人との関係づくりなど、目に見えないところも大事かと思ひます。

(委員) 以前、坊が小学3、4年の時、地域学校協働活動はまだありませんでしたが、私と仲間2、3人に「学校内の畑を耕してほしい」と連絡が来て管理機を持つ

て行ったのを思い出しましたが、そういうのが地域学校協働活動だったのかな、そういうのを進めて関係を作っていけばいいのかなと思います。

(委員) もう少し精度を上げていきたいですね。これを推進員さんたちに読んでもらって、「やってきたことが盛り込まれていてよかった」とか、「もう少し書いてほしい」とか、付け加えていいものを作っていきたいと思います。もうひとつ、ラジオ体操の話がありましたが、地域みんなでラジオ体操をやっていた頃が学校を核とした地域学校協働活動ではないかな、そういうのがひとつ、ふたつと増えていけばいいなと。なかなかラジオ体操は学校で奨励しても職員が出ていくわけでないので、「地域で健康づくりをやっていこうよ」という形でやってもらうのがいい形じゃないかなと今日思いました。

(委員) 小委員会では、事務局が皆さんの意見をまとめてくれてこの素案ができたわけですが、私が思ったのは、地域には推進員を快く受けてくれる人がいるということ。協働本部の組織がこうなんだと認知されること。例えばスポ少は継続して活動していて認知されているが、そこに貢献する地域住民が少ない、それは広報活動をしていけばいいのかもしれない。青少年の活動もそう。若いPTA役員が入ってくれているが「認知度がない」と言われる。けど、活動自体は継続している。あと、中野方や上矢作は組織図があります。大井は、母体の自治区の組織図ができていないと聞いています。私は地域のおじさんですが、父母より祖父母に育てられた感じがします。帰宅すれば祖父母がいた。先ほど、核家族の話がありましたが、核家族の保護者が活動に出た時に、地域のおじいちゃんおばあちゃんと関わることも大切だと思いました。

(委員長) ありがとうございます。また小委員会で検討して、9月の推進員さんの会議に出したいと思います。小委員会の皆さまは余分に仕事がありますが、作る喜びを味わってほしいと思います。お願いします。これで2つ目の議題を終わりたいと思います。

(3) 家庭教育支援計画事業の成果と課題の検証について

選択と集中する事業と、焦点化する取り組みの検証

(委員長) 柱が4つありますが、方法についてはA3資料に書かれています。焦点化する柱1のところ、乳幼児期の家庭教育学級、放課後児童健全育成事業(通年)(季節)についていかがでしょうか。

(委員) コロナ禍もあり、参加が少なかったようですが、少なかったからこそ相談できたということもあると思います。子どもが小さい時に相談できる場があるというのは大事だと思う。人数が少ないからこそ出せることもあると思います。不登校や家での悩みなど、入園・入学してからだけでなく、母体にいるときから悩みはあると思うので、乳幼児の家庭教育学級は参加者が少なくとも続けてほしいと思います。

(委員長) 乳幼児期の相談体制、場を開いてもなかなか人が来ないとのことですが、その辺の手立てが必要。社会教育は開いただけではお客さんが来ないので、いかに人

集めをするか、その具体化こそ、今委員が言われた願いをかなえることに繋がると思います。

(委員) 放課後子ども教室で、大井小と大井第二小は人数が多いです。他の小学校は学童との兼ね合いもあります。乳幼児学級は、昔は人が多く楽しかったのですが、今人数が少ないのは何が原因でしょうか。

(委員) 親が選んでいるとか、他の施設があるとか。

(委員長) 困っている人はいないのでしょうか。

(委員) きっと、困っている人は行かないと思います。

(委員長) その手立てを考えなければいけない。

(委員) 保健センターの健診が一番行きやすいので、そこで把握していただけると、人数は把握できる。

(委員) 健診の相談室のスタッフをしたことがあり、保健センターがチェックした人に「困りごとない？」と声をかけるが「大丈夫です」と相談に発展しないこともありました。相談できた親子の情報は、入園する園にはあげるけれど、その他の施設には流れていない。相談したことが活用されていない。

(委員長) 繋がりが不明確ですね。

(委員) 保健センターで把握したことを、親子が行きやすい場に繋いで、継続して相談を受けていく。その連携をしていく必要がある。

(事務局) 乳幼児学級への情報提供は結び付いていません。健診内容や相談内容は届いていないです。それができるのかという問題もありますが、乳幼児学級場で把握されていけばもっと良くなるかもしれません。

(委員) 保健センターと子育て支援課、幼児教育課の連携協議会のようなものはないですか。

(事務局) 縦割り行政で申し訳ないのですが、部の中であれば共有しやすいのですが、部をまたいで教育委員会と福祉の方とでは定期的な会や情報共有はできていません。それをやらなくてはいけないと、かねてから言われていますが、まだその連携が取れていません。

(委員) 個人情報と盛んに言われていた時は、にじの家や保健センターなどでも「個人情報です」と言われてしまったこともありますが、そういう関係には情報が来るようになりました。まだ、にじの家や園などに行っていない、家庭にいる子の情報をオープンにすることは難しいかもしれません。けど、保健センターではつかんでいるので健診の場はすごく大事だと思います。必ず来るので。来ていない人は保健センターの仕事でやり取りしていると思いますが、必ず来る場所から探っていくのは大事だと思います。健診は力を入れてやっているのだから、保健センターは知っているから、乳幼児学級担当者から問い合わせたりするのもいいのではないのでしょうか。

(委員) 健診の場に、乳幼児学級や元気プラザ、ファミリーサポートの担当者が出向いて説明してPR兼ねて顔出しをすると、誰がやっているのかわかって安心すると思

います。

(委員長) どこに行ったらいいかわからずに悩んでいるかもしれないですね。

(委員) 車がない人もいるだろうし。

(委員長) 専門家の意見をもらったので、保健センターで得た情報を伝えて、継続的に相談に乗ってあげられるようになるといいですね。

(事務局) はい、具体的な手立てを考えていきたいです。

(委員長) 働きかけて動いてみてください。お願いします。もうひとつ、学童と放課後子ども教室とは所管が違うけれど、こども園ができたのだから、これも一緒にできないかと思います。恵那方式で一本化した方がスムーズにできるのではないかと。学童の中で月1回は放課後子ども教室でできないか、検討してもらえませんか。

(委員) 学童の子は放課後子ども教室に参加しませんか？

(委員) 大井小と大井第二小は参加しています。ただ、できない小学校もあります。

(委員) 放課後子ども教室は会員制ですか？その都度募集ですか？

(委員) 年間通しての募集です。迎えが原則なので、学童の先生が迎えに来てくれます。

(委員) 中野方も今年から始まりましたが、学童の先生が連れてきています。

(委員) 令和4年度の東海北陸の分科会で、豊橋市の生涯学習課長をされていた方が、児童クラブと子ども教室を一体化した発表をされていました。子どもたちには幅広い人と関わりながら、塾や遊び、クラブなどがあるそうです。

(委員長) 学童と放課後子ども教室の違いがわかりませんでした。今、皆さんから聞いてわかりました。どっちがどうだか非常に分かりにくく混乱しますね。柱1は以上でよろしいでしょうか。

(委員) 意見なし

(事務局) 柱2からは次回以降にお願いしたいと思います。

(委員長) では、柱2～4をまた勉強してきてください。色々提案ができ、行政に関われるので面白いですよ。

4. その他

- ・各種大会の参加申込みについて
- ・東濃地区社会教育振興協議会研修会の前日準備の協力依頼について
- ・天の川イベント

図書館と図書館サポーターの主催。夏休みの子どもが集まる場として。落語などは大人も楽しめるので、皆さまもご参加ください。子どもたちが本に親しめるよう、色々考えていますので、地域学校協働活動にもこの講師の方々をご活用いただけたらと思います。

5. 閉会あいさつ

次回日程を申し上げます。9月27日（水）午後1時30分～ 市役所会議棟大会議室で行います。内容は、地域学校協働活動の推進について（案）としてまとめます。また、家庭教育支援計画についても継続してご意見をいただきたいと思います。

長時間にわたり、ご協議いただきありがとうございました。これを持ちまして第2回恵那市社会教育委員会を閉会させていただきます。

閉会：16時00分